

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-524
研究課題名	宮城県における前立腺癌低リスク群に対する放射線治療に関する後方視的多施設調査研究
研究期間	西暦 2014年2月（倫理委員会承認後）～2015年3月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療録と診断画像 ）
上記材料の採取期間	西暦 2000年1月～2010年12月
意義、目的	<p>本研究の目的は、宮城県内で根治的放射線治療を受けた限局性前立腺がん低リスク群症例の治療成績を明らかにし、施設間格差の有無を確認することである。</p> <p>近年、限局前立腺がん低リスク群に様々な根治的治療が行われるようになってきている。放射線治療においても限局前立腺がん低リスク群症例が増えてきており、いくつかの施設から少数による治療成績の報告は多数認めているが、他治療法と比べるようなまとまったデータがないのが現状である。更に治療施設によりその治療機器の性能および医療スタッフによる精度管理の仕方はマチマチである。そこで限局前立腺がん低リスク群症例の放射線治療成績を宮城県内の代表的放射線治療施設毎にまとめ、それを統合して宮城県内の放射線治療成績を明らかにし、他治療法との比較となるようなまとまった症例数による治療成績を求め、さらに各施設間に治療成績差があるような場合はその理由を考察することで日本国内の早期前立腺がん放射線治療の均てん化を促すきっかけとなる可能性があり、意義として大きいものと考えらる。</p>
方法	<p>東北大学を総括施設として、宮城県内で放射線治療設備を持つ代表的6施設で2000～2010年に根治的放射線治療（66Gy以上の処方）が開始された組織学的に証明された限局性前立腺がん低リスク群の症例の診療記録から調査票に回答してもらい、そのデータを中央集計し解析する。</p> <p>主調査項目は放射線治療開始日からのPSA failureの発生率。副調査項目は全生存率および副作用である。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学大学院医学系研究科 放射線腫瘍学分野 講師 松下晴雄 住所：仙台市青葉区星陵町2-1、 TEL 022-717-7312